

令和3年(ワ)第23302号 国家賠償請求事件

原告 大川原化工機株式会社 外5名








被告 国 外1名

証 拠 説 明 書 (9)

令和5年9月8日

東京地方裁判所 民事第34部甲B係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 高 田	剛	
弁護士 鄭	一 志	
弁護士 河 村	尚	
弁護士 我 妻 崇	明	
弁護士 以 元 洋	輔	
弁護士 山 城 在	生	
弁護士 坂 井	萌	

上記当事者間の頭書事件における原告ら提出の書証についての説明は、下記のとおりである。なお、原告らが既に提出した書面において定義した語句は、本書においても同一の意義を有するものとして用いる。

符号 番号	標 目	作成 年月日	作成者	立証趣旨
甲165	報告書	令和5年 8月13 日	■■■■■	<p>警視庁が令和元年5月9日に■■■■■株式会社に 行ったL-8i噴霧乾燥器の 温度実験に関し、下記各点 と矛盾する証人■■■■■の 証言の信用性がないこと</p> <p>①実験の際、同社社長から 捜査員に対し、測定口及び 製品回収容器の温度が上が りづらいことを伝えたこと</p> <p>②実験開始後、捜査員が同 社社長に対し、温度の上 がり具合をリアルタイムにモ ニタリングしたいと申出て 、同社所有の温度測定器「 極細型熱電対」の提供を受 け、製品回収容器の底部に 設置して温度測定を行って いたこと</p> <p>③同社社長が独自に温度を 想定したと申出たことはな いこと</p>

以上